

Rotary



宮崎南週報



感動と充実で豊かな夢と輝きを!

宮崎南ロータリークラブ
会長 日高 章智

第1819回例会

2015.2.9

会長／日高 章智 幹事／入佐 秀幸
副会長／川野 一義 会報／戸高 勝利
例会場／宮崎観光ホテル
ソング／奉仕の理想 四季の歌
ロータリーの目的／



宮崎西RC
高宮眞樹様



宮崎西RC
後藤祐治郎様



宮崎北RC
平野亘也様

会長挨拶

日高章智会長



私の少年時代の教育や躾でよく襟を正し背筋を伸ばして良い姿勢を保つ事をきびしく指導されたものでした。

現代ではデスクワークが多い上にパソコン携帯電話等の利用で常に頭を前に傾けた姿勢がつづいています。そのためそれを支える首、背中、腰の背面の筋が硬くなり関節に負担がかかり痛みが生じます。頸を引いて背筋を伸ばすことにより肩の凝りが軽減され腰痛にもかかりにくくなります。頸が上がると呼吸が浅く口呼吸になります。質の良い呼吸をするためには息を鼻から吸うことが大事です。鼻呼吸は鼻の粘膜を刺激するため脳が活性化します。しかし呼吸は姿勢の影響を受けるため姿勢の改善が必要です。頸を引いて舌を上顎の歯の裏側

出席委員会報告

分田正明委員長

●出席状況

本日状況	
会員数	40名
本日欠席者数	11名
本日出席者数	29名
出席率	72.50%

前々回状況	
会員数	40名
ホームクラブ出席者数	24名
メークアップ数	0名
修正出席者数	24名
修正出席率	60.00%

●前々回メークアップされた方／

ニコニコ BOX 0件 累計 209,000円

募金箱 5,700円 累計 119,421円

につければ自然と鼻呼吸が出来ます。

私は1日10分間背筋を伸ばし正座を2~3回行っています。姿勢を整え常に一番快適で一番動きやすい状態にする事が大切です。人生を有意義なものにするため頸を引くことにより誰もが簡単に体現できると思います。

幹事報告

入佐秀幸幹事

- ・Eクラブ メーキャップキャンペーン終了
メーキャップ料
¥1,000円になります。
- ・ガバナーよりロータリーイベントの御礼が届いております。
- ・ロータリー勉強会 第7回開催の案内
3月24日(火) 18:30~20:30
ホテルマリックス 2階



ロータリー情報

国際奉仕(International Service)

国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培い、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。

その他の

次年度のテーマについて 大迫三郎会員



『世界のプレゼントになろう』

私達の人生は、いつか終わりが訪れます。で始まる次年度国際ロータリー会長K. R. "ラビ" ラビンドラン会長のメッセージは単純な表現の中に強く深い意味があります。（別紙参照）

文章の中に結局のところ、私達の人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されるのです。

「『人は手を閉じて生まれ、手を開いて世を去る』『己の才能は、天から授かったもの』と言われます。ですから私達は、その授かりものをお返しするのです。」とあり、“私達は自分自身がロータリアンとして、又一人間として世の中に如何に尽くせるか”を述べています。職業を通じて家族、地域社会、国、世界へ“どのように尽くしていくか”はまさに自分自身の行いをもって『世界へのプレゼント』としようと言う単純にして深いメッセージです。私達の日々の生き様の中にこの意識を持つことを修養するのがロータリーだと述べています。

ロータリーの例会は勿論、あらゆる活動の中にこの精神が息づいているのです。

本日のプログラム

外部卓話

国際奉仕について サーシャ・クリンガー様



「ドイツについて学ぼう」

というプレゼンテーションの概要

- 講師の自己紹介：2009から宮崎市の
国際交流員の勤務、仕事の内容の例

として、①インターナショナルクリスマスマーケットと②宮崎国際フェスティバルのドイツブースを挙げる

- 講師は現在は公立大の事務と傍ら、サムエル幼稚園の園長をやっている
- 日本とドイツの交流について：明治時代に多くの日

本の学者はドイツで医学、法学等について勉強した

- 軍事的交流：三国同盟、ドイツ青少年団体「ヒトラーユーゲント」の宮崎訪問について
- 最近の日独交流は再生可能エネルギー発電の分野では盛ん（福島原発事故の影響で、ドイツは脱原発を宣言した）
- 講師の故郷を紹介（ドイツのドレスデン市）
- ドレスデンを観光スポットとして紹介（バロック建築、クリスマスマーケット、モリツブルク城、マイセン等）
- ドレスデンの空襲について：昔の街並みは失われてしまった、中に再建されて建物もある（例：聖母の教会）
- 崩れた聖母の教会は長い間、空襲・戦争のメモリアルとして残されたが、90年代に再建した。メモリアル機能を維持するため、黒く焼けた瓦礫を新しい壁に混ざって入れた
- 第2次世界大戦後に行われたドイツの分割について。旧東ドイツの経済・人権的な状況が悪くて、逃亡者がが多い。外国への人材流出を妨害するため、旧東ドイツの政府はベルリンの壁を建設する。
- 講師の父親も逃亡を検討したが、家族の配慮でやめた。ウインドサーフィンを通して、自由（西ドイツ）の憧れを表現した。
- 1989年に壁が崩壊した際、講師がとった記念欠片を提示した
- 初めての海外労働報告
- 最近のドレスデンの話題（反イスラムデモ）について：故郷のドレスデンはドイツの右翼活動の中心として世界中に報道されていることについて講師は恥ずかしく思っているが、隠れたくもない。

トピックス！

●米山奨学生（金冠宏さん）奨学金授与式



2015-16年度 国際ロータリー
K. R.“ラビ”ラビンドラン会長

2015-16年度テーマ
『世界のプレゼントになろう』
『Be a gift to the world』



私たちの人生には、いつか終わりが訪れます。しかも、終わりは思ったより早く来るものです。この限られた人生をどのように過ごしたらいいのでしょうか。世界が良い場所となるよう、人のために何かしますか。それとも、インドの著名な詩人、ラビン德拉ナート・タゴールの言葉のように、「楽器の弦の張替えばかりしていて、肝心な歌を歌わずに」毎日を過ごしますか。

ロータリーの栄光は、まさにその「歌を歌う」道を見つける手助けをしてくれることにあります。人生で本当に大切なことに目を向け、私たち自身が世界への贈り物となる方法を見つけることで、より充実した意義ある人生を送れるよう、私たちを導いてくれるのです。

友人に何を求めるかを考えると、ほとんどの人は、高潔性、信頼性、思いやり、相性を挙げるでしょう。私たちが求める友人とは、必ずしも自分と似通った人ではなく、自分にないものを持っている人、自分のいいところを引き出してくれる人です。私は、ロータリーがその特徴を備えていると思います。

ロータリーは、私たちの資質を引き出し、それを人生で生かす道を見つけてくれます。

私たちは往々にして、あまり意味のないことに捕らわれて毎日を過ごし、物を手に入れるために身をやつします。しかし、私たちがこの世を去った後、人が思い起こすのは、私たちが生前乗っていた車でも、着ていた服でも、肩書きでも、役職でもありません。より大きな資産や、より高い地位を得ようと払った努力のことでもありません。

結局のところ、私たちの人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されるのです。

ですから、苦しんでいる人から目を背けずに、その苦しみを和らげてあげましょう。同情の言葉をかけるだけでなく、実際に何かしてあげましょう。社会から享受するだけでなく、社会に貢献しましょう。

2015-16年度の私たちのテーマは「世界へのプレゼントになろう」です。

地位や身の上にかかわらず、才能、知識、能力、努力、そして献身と熱意など、誰でも与えることのできる何かをもっているはずです。私たちは、ロータリーを通じて、これらを世界にプレゼントすることで、誰かの人生に、そして世界に、真の変化を起こすことができるはずです。

「人は手を閉じて生まれ、手を開いて世を去る」、また「己の才能は、天から授かったもの」と言われます。ですから私たちは、その授かりものをお返しするのです。

私たちは皆、この世に生まれ、何でもつかみ取ろうとしますが、この世を去るときにはすべてを残していきます。ロータリーを通じて私たちは、いつまでも続く、本物の何かを残すことができるでしょう。

私たちに与えられた時間は今です。この機会は二度と訪れるものではありません。

「世界へのプレゼントになろう」

2015-16年度国際ロータリー会長
K. R. “ラビ” ラビンドラン